

「規制」と「韓流ブーム」の関係 [社会学]

開講単位： 4単位 担当者： 服部 慶巨

学習目標

我々の日常には、様々な規制が存在する。しかし、規制の存在によって我々の社会生活が保たれるという事実もある。今年は、「規制」をテーマとし、社会学的想像力を理解しやすくするため、「韓流ブーム」を取り上げる。

授業方法

教科書・参考書・プリント・板書を用い、受講生自身も陥りがちな問題点を例示し、日常生活に根ざした社会学を講義する。

授業計画〔各90分〕

1回目	講義目的・目標などの確認	14回目	「韓流ブーム」の理解
2回目	状況(情況)判断	15回目	「韓流ブーム」の理解
3回目	社会的動物としての人間	16回目	情報の循環過程と規制
4回目	社会的動物としての人間	17回目	情報の循環過程と規制
5回目	規制とは何か?	18回目	「日本大衆文化開放」論
6回目	日常の中の規制 人間	19回目	「日本大衆文化開放」論
7回目	日常の中の規制 地位	20回目	「日本大衆文化開放」論
8回目	日常の中の規制 役割	21回目	「日本大衆文化開放」論
9回目	日常の中の規制 文化	22回目	「韓流ブーム」到来
10回目	日常の中の規制 同一視	23回目	「韓流ブーム」到来
11回目	日常の中の規制 放送	24回目	日韓友情年について
12回目	受容の効果	25回目	まとめ
13回目	受容の効果		

別途、ガイダンス及び試験を実施する週を設け、全30回以上を目安とする。

教科書

『人間生活の理論と構造』 夏川 康男(ほか)著 学文社

参考書

『補強版ストレス・スパイラル』 服部 慶巨著 人間の科学社

成績評価基準

終講試験(70%), 受講態度(20%), 小レポート(10%)で評価する。